

# カレッジ通信

編集・発行

東京建築カレッジ

授業見学  
大歓迎!



## 「建築のしごと 建築カレッジからはじめよう」 オープンキャンパスで実技実習体験を

東京建築カレッジ（以下、カレッジ）は来年4月入学生を募集中です。建築未経験者でも仲間と一緒に学べば、将来の可能性は広がります。オープンキャンパスにぜひご参加ください。



昨年オープンキャンパスに参加して今年春入学した1年生6人のうち3人に、学校宣伝の撮影に協力してもらいました

「**新人教育でカレッジ入学  
就職先も紹介します**」

カレッジは、どんな学校か、何を学ぶのか、伝えるために、オープンキャンパス（学校説明会）を開催します。参加者は大工実技実習の授業の一部も体験できます。また、「入学時以降、東京建築カレッジへの通学を保障する建築関係の事業所に就職していること」が入学資格のため、希望者にはカレッジ職業紹介所が就職先の紹介も行います。新入社員教育にカレッジを利用（学費の全額を会社負担）する工務店や建設会社に就職するチャンスが得られます。

開催日は6月15日（日）、8月24日（日）、12月7日（日）。会場は6月と12月が江東実習場、8月は池袋校舎。各回とも午前11時〜午後5時まで。参加登録はカレッジのホームページから。お問い合わせは電話03・5950・1771、技術研修センター内カレッジ係。



## 第30期生18人 入学して一か月、すくすく成長

4月2日の入学式・オリエンテーションから1か月が経ちました。新入生（第30期生）18人は1日も欠席者を出すことなく、元気に学んでいます。大工手道具の整え方を学んで以降は、早朝や放課後に自主練習する人が目立ちます。実技実習、安全の学習、数学、基礎製図、構造力学。新しい学びを日々吸収し、すくすく成長しています。

まだまだこれからの段階ですが、クラスメイト同士が声かけあって「良い受講態度を維持していこう」という動きが見られます。夏の競技大会出場を目指す「四方転び踏み台」入門講習会（任意参加）への参加者も3人います。授業の様子を見に来てください。



### 自分で作る喜びは最高

「昨年10月のオープンキャンパスに参加して、土台と柱の接合部のミニチュアのような作品をつくりました。課題の図面を理解し材料に墨付けをしてから手道具で刻みます。先生に助けってもらいながら自分で作り上げた喜びは最高。終了後は就職の相談もできます。手道具使いから学べる建築の学校は貴重です。ものづくりの仕事に興味があるのなら参加をお勧めします」（第30期生 池田祐希子、建築大工、㈱辰建）

### 規矩準縄勾

今年も入学生募集の活動がスタートしました。本校の入学生定員は20人。受け入れ可能な25人入学を目標にしています▼卒業後の進路が多様な高校の先生によると、これまで高校新卒を正社員採用してこなかった大企業の求人が増える一方、進学志向は増加傾向。高校新卒の獲得はさらに難しくなりそうです。ある都立工科高校の進路指導の先生からは「うちは進学校に変わりました。就職組は大きく減ります」と言われてびっくりしました▼ただ、希望がないわけではないです。建築の仕事がカッコイイと思う若者は少なくないです。環境意識の高まりから木造建築の可能性に関心が高まっていることです▼無垢の木を建築にどう使うか、先人の知恵を手道具・手刻みから習得していく本校独自のカリキュラムの魅力をもっと多くの人に伝えることができましたら、目標達成の展望は開けると確信します。

2年生の  
授業から

まわ  
「廻り階段」  
原寸図から製作実習  
安全教育修了後、丸のこ作業も



2年生（第29期生）の4月の実技実習課題は「廻り階段」。班学習でうち1班は2階建ての実習棟に取り付ける階段を担当します。原寸図作成から作業を開始。「今やプレカットばかりだが、君たちは階段を図面から自分で

作れる大工をめざせ！」という厳しい指導で、緊張感に満ちた授業になっています。

この授業は丸のこを使います。開始前に「丸のこ作業従事者教育」を全員受講・修了し、安全第一で授業を進めています。

右は、班ごとに製作する廻り階段の模型。難度の高い実習課題です。丸のこを使うので安全指導に細心の注意を払って作業を進めています。



グループ学習で教えあう数学の授業。「教えることで理解が深まる」の感想も

1年生の  
授業から

建築の仕事で欠かせない  
「数学」を好きになる

建築の仕事に必要な数学を初歩から学ぶ「建築測量基礎」は本校名物授業の1つ。カレッジ第9期卒業生の元都立高校教員（担当科目は物理）、黒田順さんが自作した「建設業従事者のための数学講座」というテキストを進めます。毎年のように「この先生に中学校で習いたかった！」という声が上がります。

黒田先生が重視しているのは、「なぜ、そうなるのか」の問いかけです。分数同士の割り算はなぜ片方をひっくり返して掛けるのか、自分の言葉で説明できる理解に到達できたから、他人に説明できます。

グループ学習では、先に理解できた人は自然に仲間を教える側にまわり、説明力が試されます。「ここまで理解できた人は応用力が付く」（黒田さん）。

カレッジでは授業日の終礼での「日報」提出を義務付け、各科目の受講感想を書かせています。数学講座については「勾股の作る三角形が出てきた。屋根工事で必要などころ。同じ班の仲間に教えることも勉強になる」という記述もあり、教育の効果が感じられます。

建築の仕事で欠かせない  
「数学」を好きになる



計測無し250mmの長さに切断するゲーム

グループ学習では、先に理解できた人は自然に仲間を教える側にまわり、説明力が試されます。「ここまで理解できた人は応用力が付く」（黒田さん）。

カレッジでは授業日の終礼での「日報」提出を義務付け、各科目の受講感想を書かせています。数学講座については「勾股の作る三角形が出てきた。屋根工事で必要などころ。同じ班の仲間に教えることも勉強になる」という記述もあり、教育の効果が感じられます。

毎年、納涼会までは2年生が担当、忘年会から新1年生が企画・運営します。今年の12月の忘年会からは1年生が企画・運営する懇親会になります。参加者がみんな楽しめる会の運営も社会人の勉強の一つです。

「建築社会論」担当 森山 高至 講師  
新刊『ファスト化する日本建築』（扶桑社新書）発売



東京建築カレッジは、研修生の視野を広げる特別授業を豊富に設けています。オムニバス授業『建築社会論』の森山高至さん（建築エコノミスト／一級建築士）の授業もその一つです。このほど、森山さんの新しい著作が出版されました。「第三章 住宅のファスト化」、「第四章 建築人材のファスト化」の内容は、本校の教育活動の意義をあらためて確認させてもらえる内容となっています。扶桑社新書、2025年5月、本体1050円＋税。